

ドイツ語（初級 A） 第 9 回 前置詞（後半）、並列の接続詞

範囲：教科書第 5 課 A 後半, B (S. 24-25)

《今回の基本例文》

24. Wegen des Examens arbeitet er jetzt sehr fleißig. (CD30-5)

試験のために、彼はいま非常に勤勉に勉強している。

[2 格支配の前置詞]

25. Der Ausländer fragt den Polizisten nach dem Weg. (CD31-2)

その外国人は警察官に道を尋ねている。

[特定の前置詞と結ぶ動詞による熟語（1）]

26. Ich warte hier schon lange auf meine Frau. (CD31-4)

私はここですでにながらく妻を待っている。

[特定の前置詞と結ぶ動詞による熟語（2）]

27. Das Land ist reich an Bodenschätzen. (CD31-5)

その土地は地下資源が豊富である。

[特定の前置詞と結ぶ形容詞による熟語]

I 前置詞（第 2 部）：2 格支配、前置詞を用いた熟語

A. 前置詞（続き）

4 2 格支配の前置詞 (S. 24)

◇ 2 格支配の前置詞は、もともと副詞などほかの品詞であったものが名詞の 2 格をともなって使用されるようになったことから生じたもので、数が多いが、用法は比較的単純である。さしあたり、いまの段階では教科書のものを覚えておけばよい。

* ほか、有名なものとしては、*diesseits* (*prep.* ～のこちら側に)、*jenseits* (*prep.* ～の向こう側に) などがある。新しいものを見かけるたびに辞書を引けばよい。

◇ **statt** や **anstatt** (～の代わりに) は *instead of* と考えてよい。

* *statt* も *anstatt* も意味は同じ。an はつけてもつけなくてもよい。

◇ **trotz** (～にもかかわらず) は *in spite of* と考えてよい。

◇ **während** (～のあいだ) は *during* と考えてよい。

◇ **wegen** (～のために) は *because of* と考えてよい。

◇ **außerhalb** (～の外側に) は *outside*、**innerhalb** (～の内側に) は *inside* と考えてよい。

* 教科書にもあるように、*trotz* と *wegen* は日常語では 3 格支配として使うことが多いが、正しくは 2 格支配である。。

◇ 2 格支配の前置詞を用いる場合、きちんと名詞を 2 格にする（＝男性名詞と中性名詞には -s か -es をつける）ことを忘れずに。

5 特定の前置詞と結ぶ動詞・形容詞

◇ 英語における *wait for* や *be proud of* のように、ドイツ語でも特定の前置詞と結合して使われる動詞や形容詞があるが、

- ・格支配は前置詞のものを踏襲する
- ・3・4 格支配の前置詞と結合する場合、3 格と 4 格のいずれをとるかは動詞によって決まる。

◇ 前置詞と動詞や形容詞の結合は、その動詞や形容詞を辞書で引くことによって確認できる。その場合、

auf *et.*⁴ antworten 〈物の 4 格〉に答える

jn. um *et.*⁴ bitten 〈人の 4 格〉に〈物の 4 格〉を頼む

のような、略記号をともなった**不定詞句**として記載されている。antworten auf や bitten um など、英語的な語順では書かれないことに注意。

◇ なお、ドイツ語の教科書や辞書で使われる、格に関する略記号の一覧は以下の通り。

略記号	読み方	意味
<i>js.</i>	jemandes	人の 2 格
<i>jm.</i>	jemandem	人の 3 格
<i>jn.</i>	jemanden	人の 4 格
<i>et.</i> ²	etwas	物の 2 格
<i>et.</i> ³	etwas	物の 3 格
<i>et.</i> ⁴	etwas	物の 4 格

* この教科書でも使われている。ただし、初学者用の辞書や文法書では、2 格を②、3 格を③など、わかりやすい表記をする例も見られるので、自分の辞書を確認しておいてほしい。

** jemandes, jemandem, jemanden は jemand のそれぞれ 2 格、3 格、4 格。jemand（誰か、someone）と etwas（なにか、something）はいずれも不定代名詞で、のちにまとめて扱う。（⇒教科書第 13 課）

◇ 独和辞典の場合、動詞や形容詞本体は省略されていることが多い。例えば、「antworten」の項目を引くと、単に「auf *et.*⁴ ～に答える」のように書いてある（これが auf *et.*⁴ antworten のことであるのは自明なので）。各自、使用中の辞書での表記法を確認されたい。

◇ こうした略記号は、今後は本授業、配付資料でも踏襲する（教科書でも使っている）。

■ ドイツ語における文の構成要素の記述法（重要）

目的語－動詞

述語内容語－動詞

前置詞句－動詞

- ・文の構成要素を記述する際は、不定詞句の語順とする。英語とは逆であることに注意。
- ・前置詞を用いた熟語もこのように書かれる。

◇ 以下は初心者泣かせなので、しっかり確認してほしい。文の構成要素を言う場合、英語では「動詞－目的語」や「動詞－前置詞句」のような(S)VO 語順を用いる。一方、ドイツ語では、「目的語－動詞」や「前置詞句－動詞」などの最後に動詞を置く不定詞句の語順＝(S)OV 語順を用いるのが普通。

（⇒本授業配付資料第 3 回 S. 1-2）

◇ 例えば、主語を入れて正式な文になる以前の「テニスをプレイする」を言う場合、英語では、

- ・ (to) play tennis

であるのに対して、ドイツ語では、

- ・ Tennis spielen

と言わなければならない。

◇ これに応じて、いわゆる熟語の記述方法も変わってくる。「～を誇りに思う」は、英語では、

- ・ be proud of ～

であるのに対して、ドイツ語では、

- ・ auf et.⁴ stolz sein

と書くことになる。

練習 1

辞書を参照して、以下の文から熟語を抜き出し、例の形式にならって意味を書き出せ。

〈例〉 Der Ausländer fragt den Polizisten nach dem Weg.

→ jn. nach et.³ fragen 〈人の 4 格〉に〈物の 4 格〉を尋ねる

Das Land ist reich an Bodenschätzen.

→ an et.³ reich sein 〈物の 4 格〉に富んでいる

1. Sie denkt immer an die Sterne.
2. Die Christen glauben an Gott.
3. Er verfügt über sein Geld frei.
4. Rot steht für den Sozialismus.
5. Er ist auf seinen Erfolg sehr stolz.

練習 2

教科書 S. 24 の Übung 6 の各小問について、練習 1 と同じ作業をせよ。

■ 不定代名詞 man と niemand (S. 24, Übung 6)

主語の **man** = 「人々は」

◇ **man** は、漠然と一般的な「人」を表す不定代名詞（英語の *one* に相当）。

- ・ 格変化も一応あるが、1 格の **man** が頻繁に登場するのでそれを覚えればよい。
- ・ **man** を主語とする文は、日本語には主語なしで訳せばよい。主語を入れる場合、「人々は」とする。

~~~~~  
In Österreich spricht **man** Deutsch.

~~~~~  
オーストリアではドイツ語を話す。（オーストリアでは人々はドイツ語を話す）
~~~~~

※ **man** は非常に使用頻度の高い代名詞で、*one* とはそこが異なる。おそらく、英語の *you* に近い使い方をするとと思われる。

※※ この不定代名詞の **man** は、普通名詞の Mann (*m.* 男性、夫) とは異なる。混同しないこと。

◇ **niemand** は、「誰も～ない」を示す不定代名詞（英語の *nobody* に相当）。こちらも格変化が存在するが、取り敢えず 1 格の **niemand** だけ覚えればよい。

## II 並列の接続詞

### B. 定動詞の位置（2）：並列の接続詞（S. 25）

#### ■ 並列の接続詞

**aber** = *but*    **denn** = *for*（「なぜなら」の意味の）

**oder** = *or*    **und** = *and*

→ 定動詞第 2 位の原則で言う「1 要素」に数えられない。

◇ **aber**（「しかし」）、**denn**（「なぜなら」）、**oder**（「あるいは」）、**und**（「そして」）は並列の接続詞であり、文頭ないし文同士をコンマでつなぐ際に置かれるのが基本である。

\* 英語では「なぜなら」の意味の *for* は文章語的表現となるが、ドイツ語の *denn* は日常会話でもよく用いる。

つまり、並列の接続詞は定動詞第 2 位の原則でいう「1 要素」にカウントされない。

第 1 位    第 2 位

Abends **trinkt** er Bier.    彼は晩にビールを飲む。

Aber er **trinkt** Bier.    しかし、彼はビールを飲む。

\* 副詞 *abends* を文頭に出す場合、それは 1 要素とカウントされるので、第 2 位に定動詞 *trinkt* が入る。

\*\* 一方、*aber* を文頭に出す場合、並列の接続詞は 1 要素とカウントされないの、次に主語を置いてよい。そして、この主語 *er* がはじめて 1 要素と数えられ、その次の第 2 位の位置に定動詞 *trinkt* が入る。

\*\*\* 正式には、英語の *and* や *but* のように、これらを文頭に置くのは好まれない。文と文をつなぐ際に用いるのが望ましい。

△ Aber er trinkt Bier.

○ Sein Vater trinkt kein Bier, aber er trinkt Bier.

◇ ほか、教科書の例文についての補足。

Er geht ins Theater, aber ich bleibe zu Haus.

彼は劇場へ行きます、しかし私は家に残っています。

\* *zu Haus* は「家に」。この *zu* は 3 格支配の前置詞 *zu* の基本的な意味（移動の目的地）とは異なり、一種の熟語である。

Wir mögen ihn, denn er ist sehr freundlich.

我々は彼が好きです、なぜなら彼はとてもいい人（フレンドリー）だからです。

\* *ihn* は人称代名詞 *er* の 4 格、*mögen* は話法の助動詞 *mögen* の一般動詞としての用法。（⇒教科書第 6 課、第 7 課）

Ich gehe zu Fuß, oder ich nehme ein Taxi.

私は徒歩で行くか、あるいはタクシーを拾います。

\* *zu Fuß* は「徒歩で」。この *zu* も 3 格支配の前置詞 *zu* の基本的な意味とは異なる。やはり一種の熟語。

Gert ist Student, und Vera ist Studentin.

ゲルトは男子学生です、そしてヴェーラは女子学生です。

#### 連絡先など

教員のメールアドレス：tokan@nifty.com 授業のウェブサイト（進捗表示、配付資料あり）：<http://hhasegawa.la.coocan.jp/lecture/>